

連携先世界遺産： 清水寺

清水寺の△△の〇〇(良い点)を磨け！もしくは□□(困っている点)を救え！

境内の魅力を再発見しそれを伸ばす、あるいは問題点を発見しその問題解決を図る、いずれにしても独自の視点で新しい課題を見つけ解決する

■受講生

日比谷京佳 (立命館大学・経営学部・4回生) 新谷彩 (立命館大学・理工学部・4回生)
五十川直希、井上聖花 (立命館大学・国際関係学部・3回生)
濱田紘朱、栗須谷壮真、不破弘貴 (立命館大学・経済学部・3回生)
平野裕大 (立命館大学・理工学部・3回生) 鈴木暉 (立命館大学・文学部・3回生)
倉野凧沙 (大谷大学・文学部・1回生)

■担当教員

宗本晋作、青柳憲昌、遠藤直久 (立命館大学・理工学部・教授、准教授、助手)

活動目的・概要

世界遺産・清水寺を対象に、お寺でもまだ気づいていない、時代を超え後世まで維持していくべき良い点は何か？逆にまだ気づいていない困りそうな点は何か？

未来の清水寺のために見つける課題は、良い点でも、困っている点でもよい。清水寺での講話やフィールドワークから良い点または困っているを発見し、良い点なら伸ばし、困っている点なら改善できるように考えてもらう。学生達が独自に発見し設定した課題を既成概念にとらわれることなく、創造性豊かに解決する提案を創造することを目的としている。

学生を3グループに分け、清水寺で講話を聞き実地調査を行った。グループごとに独自の視点で清水寺の良い点、もしくは困っている点を見つけてもらった。成果は成果物はホームページ等で公開し活用いただくことが目標として、森先生にもご参加頂き、議論と推敲を重ね、各々の提案に辿り着く。

例年通り、共同作業を経て、他大学の学生や理系文系の専門分野の異なる学生同士が、積極的な交流を図ることも目的の一つとしている。結果、初年度から続く受講生のOBOG会=清水寺ファンの定着に繋がっている。



◆主な活動

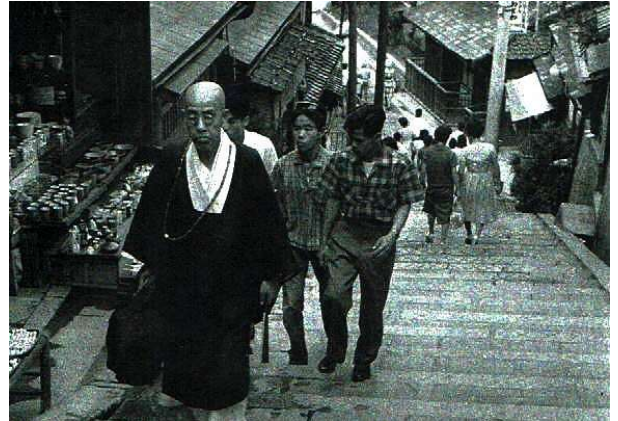
- | | | | |
|-------------|----------------------------------|--------------|------------------------------------|
| 2020. 6. 07 | 世界遺産に関する学習、森清頭先生による清見寺の案内、グループ決定 | 2020. 10. 03 | 第4回草案批評、具体的な提案の決定 |
| 2020. 6. 21 | 青柳先生による建築史からの講義 | 2020. 10. 11 | 森清頭先生への中間発表、講評
提案の修正とより具体化の方針確認 |
| 2020. 7. 05 | フィールドワークと第1回草案批評 | 2020. 11. 08 | 第6回草案批評、提案内容の具体化 |
| 2020. 8. 30 | 第1回草案批評、現地調査とアイデアづくり | 2020. 11. 29 | 森清頭先生への成果物発表 |
| 2020. 9. 10 | 第2回草案批評、フィールドワーク
各班によるアイデア推敲 | 2020. 12. 13 | 成果発表 |
| 2020. 9. 11 | 第3回草案批評、フィールドワーク | | |

活動の成果

清水寺での講話やフィールドワークを通じ、各グループの発見した問題解決のための着想をもとにそれぞれの提案をまとめました。清水寺の魅力を”無我”と”縁起”によって語るものや、手紙で観音様とより親密になろうというもの、子供を焦点に当てて修行という名のツアーを考えるものなど、オリジナリティ溢れる魅力的なアイデアを各々が試行錯誤して生み出しました。

参詣道から見る清水ブランド

昔の資料を参考に、観光地化前の本当の清水を体験できる新しいルートを提案する。近年は参詣道に清水ブランドがなくなりつつあり、昔からの清水らしいお店が埋もれている。もう一度来てもらうために、清水寺門前ならではのお店や景色を楽しんでもらう。門前の変化を年代別の地図で比較したことで、1960年代まで遡ると清水らしさが残る観光地化前の風景を体験できることが判明した。古写真と全く同じ今の場所を比較すると、良い風景は今も残っていることが見受けられる。昔からある店舗や清水らしさを楽しめる風景を繋ぐと新しいルートが完成する。これらのルートは、清水らしさを体験できる新しい参詣道の巡り方である。



あなたの日常の中にも非日常を

清水寺は非日常的な空間でありながら、隙間から日常が見え隠れしている。清水寺では日常と非日常が共存している。

非日常的空間を「日常の遮断・隔絶・排除」によって実現させているディズニーランドと比較を行うことで「日常との継続性・連帯性」がある一元的な概念を持つ清水寺らしさというものが見えてきた。この概念を多くの人に理解してもらうことで、各々のやり方で清水寺での体験を日常生活の中にも持ち込んでもらえると考えられる。例えば、音羽の水と家の水道の水。全然違うように感じるが一元的な考え方では同じ水。音羽の水を家に持ち帰ることから始めれば、だんだん同じ水というふうに感じられるようになるかも。



遥拝のすゝめ

清水寺を訪れる人達を、「お寺に参拝しに来た人」と形容するのは何か抵抗がある。恐らく大多数が観光のみを目的とするからだろう。清水寺を巡るなかで気が付いた「遥拝」に着目し、清水寺の良さを今以上に引き出せるのではないかと考えた。その際、新しい遥拝として、今までとは違う遥拝の形を提案する。「清水寺遥拝スポット」と「清水寺に対する遥拝法」である。既に存在する遥拝を分析、再構築することでこの提案にたどり着いた。新しい遥拝を必要とした理由は、従来の遥拝は宗教の精神に触れる必要があり、一般人には簡単ではないからだ。新しい遥拝をきっかけに、皆さんにも清水寺の新たな一面を発見して頂きたい。

清水寺遥拝スタイルの提案

新しい「遥拝」

前スライドの目的を達成する手段
一般人が祈りや教えを根本から理解するのは難しいので、従来の「遥拝」とは違うかたちに。





活動を振り返って

- チームで話し合いをしたりアイデアを出し合って、0から新しいものを生み出すのには苦労したが、この経験は社会人になっても生きると思うし、とても自信になった。なにより清水寺、京都がとても大好きになった。
- 普段の観光として見ていた清水寺を様々な視点から観察し、問題を発見・解決するという取り組みは非常に貴重な経験だったと思った。この学びを残りの大学生活に活かしていきたい。
- 活動の中で聞き手に分かりやすく自分たちの意見を組み立てる事の難しさを感じたが、同時にやりがいも感じる事ができた。本当に良い経験ができたと思う。
- 自分達ならではの視点を持って調査・考察し、提案することが出来た。その過程で、これまで何度も通ってきた風景が初めて“よく見える”ようになり、様々な発見に驚いた。清水寺にしかない価値を多くの人に感じて欲しい。
- 今まで清水寺に来る時は写真を撮って満足していましたがPBLを通して自分達で調査したり話を聞いてく中で清水寺の本質的な部分が分かり、違う視点から清水寺を見ることができて良かったです。
- チームで取り組むことの重要さを学んだ。0から何かを生み出すという難題であったが、全員で協力することで達成することができた。この経験から得た反省や成果を今後に生かしていきたい。
- チームで課題や目標を共有し、課題解決にむけて能動的に調査や考察をする過程で多角的に物事を見ることができ、貴重な経験をすることができた。この経験を自分の成長の糧にしていきたい。
- どんなに些細なことでも素晴らしい提案になりえること。どんなに優れた発見でも使い次第では魅力がなくなること。班員との議論を通して、発見・考察・提案の難しさと楽しさを学ぶことが出来た。
- 班員で協力して深掘りしていくことで、全く知らなかった清水が持つ本来の魅力にたどり着けた。時間が経つにつれて埋もれていってしまった姿を掘り返して、再度見つめ直すと、ただの観光地でない清水寺を発見できた。
- 学部も考え方も三者三様な班員同士、はじめはでこぼこ過ぎて形にできるのか、という不安もあった。しかし、面白いと思うところも目の付け所も違う面子だからこそ今の形ができた。歩み寄りと個性の発揮し合いは純に楽しい。

担当教員からのコメント

宗本晋作

課題の解決法と問題設定の組合せを学生自身で発見しなければならないため、最初の部分で手こずる学生は多い。しかしながら、苦戦しながらも見出した活路は、魅力ある新しい構想に繋がり、それを人に伝えようとする高い創作意欲になると信じ、指導している。今年は、コロナ渦でもあったが、学生たちの高い意欲を原動力に、例年よりは短期間の中で、学生たちの自主的な授業時間後や時間外の長時間にわたる積極的な実地調査や議論により、期待以上の成果品ができたと感じている。また学生たちの新鮮なアイデアを共にブラッシュアップしていく過程で、私自身も常に考えさせられ、共に学んでいる。6回目となった今回もまた、このように私自身にとっても大変実り多い経験となった。これらの背景に、森清顕先生のご指導をはじめとする清水寺の大きなサポートがあったことを特筆させて頂いた上で、今一度、深く感謝を申し上げたい。

青柳憲昌

この課題は、清水寺について学生たちが感じた良さや課題を発見し、その良さをさらに磨き、また課題を解決するためのアイデアを提案してもらったものです。テーマが広く、難しかったと思いますが、学生たちは意欲的に取り組み、期待以上の成果が生まれたと思います。学生ならではの個性的で独創的な視点に立って「清水寺」とは何かを考え、様々なアイデアを提案してくれました。

また、清水寺さんからの専門的知識のご教示やご助言のお陰で、成果物の完成度は高いものとなったと思います。

遠藤直久

本年は、未だ続くパンデミックの脅威と混乱のなか学生さんたちにとっては非常に厳しい生活であったと思います。その中、皆さんは意欲的に活動できていた有意義な機会でありました。しかし、驚くべきことにみなさんはとてもユニークな視点を持って、柔軟に展開させ提案しています。受け容れるだけの学びではなく、自ら手応えを感じながら掴んでゆく学びに価値のあった時間となったと思います。学生たちにはこの課題を通して得た経験を、これからの社会活動や人生において活用して欲しいと望んでいます。我々にこのような機会を与えてくださった森清顕氏をはじめ関係者の方々には心より深謝いたします。

活動資料

2020.7.5 清水寺：森清顕先生による講話、境内案内



森先生より、清水寺の1200年以上に渡る伝統と文化を重んじる中での、今年度のテーマであった清水寺の近況、また近年の観光までの変化についてお話いただきました。その後、フィールドワークにて、清水寺に現存する文化財、サインのあり方や、観光客のマナーなど幅広く解説いただきました。

2020.9.10 清水寺：草案批評とフィールドワーク



各班員が持つ知識やインターネットの情報、森先生の話をもとに境内を散策し、どのような問題点または長所があるか探しました。

その内容の質を先生たちと高めていく過程=エスキスを体験し、ツクルことの大変さをこれから知ることになります。

2020.10.11 清水寺：森清顕先生への中間発表



今まで思考錯誤して育ててきたアイデアを森先生に途中経過として発表しました。各班、様々な方法による提案を行い森先生のエスキスを有意義に受けることができました。

案の方向性や質を高める方法などを話し合い、より具体的な形を掴む良い機会になりました。

2020.11.29 清水寺：最終発表に向けた準備

モデルルートの特徴

- ・清水らしさがある時代と同じ風景をみれる
- ・清水ブランドの確立
- ・門前の魅力を理解する/好きになる



リピーター、観光客の増加



一元路について聞く機会をつくる
↓
日常でできることを考え、実行する
↓
清水寺を訪れ、日常を考える

清水寺の良さを日常の中でも実感できる
日常を極めることが出来る場所として

伴って期待される効果

清水寺に与える影響

- ・参拝を通して清水寺に来ることの価値を高める
→リピーターになり、参拝客増加に寄与

人々や社会に与える影響

- ・新型コロナウイルス対策 三密を避けられる
- ・観光の高度化に対応する

森先生に発表する最終成果物の最終エスキスの日でした。どの班も魅力的な案を持っており、あとは上手に伝えられるようにまとめる段階にありました。まずは来月森先生を納得させられるように最後のエスキスを真剣に聞き、修正箇所を綿密に探しました。